

平成 22 年 5 月 24 日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2007 ～ 2009
 課題番号：19720022
 研究課題名 (和文) リッポ・ディ・ダルマジオを中心とするボローニャの後期ゴシック美術とその評価・受容
 研究課題名 (英文) Lippo di Dalmasio, Some Other Bolognese Late-Gothic Painters and the Problems of Their *Fortuna Critica*
 研究代表者
 高橋 健一 (TAKAHASHI KENICHI)
 和歌山大学・教育学部・准教授
 研究者番号：70372670

研究成果の概要 (和文)：

本研究では、ボローニャの画家リッポ・ディ・ダルマジオ (1350 年頃～1410 年) の生涯と作品について体系的な調査がおこなわれて、その結果、多くの基礎的な事実が明らかにされた。また、かつてこの美術家に帰属されたボローニャの後期ゴシックの画家たちの作品、ならびにフランチェスコ・カヴァッツォーニやカルロ・チェーザレ・マルヴァジアをはじめとする後世の批評家の言説があわせて参照されることで、敬虔なる画家リッポ・ディ・ダルマジオ像の歴史の変遷が詳細に再構成されている。

研究成果の概要 (英文)：

This study is the result of the research on the life and works of the Bolognese painter Lippo di Dalmasio (c. 1350-1410) using primary sources. As a result it has been possible to find many facts, unknown heretofore, but fundamental to analyzing such problems as chronology, relationships with other artists and patrons, and authenticity of his paintings. In addition, by examining the works of some other Bolognese late-Gothic painters, once attributed to Lippo di Dalmasio, and the comments of critics, such as Francesco Cavazzoni and Carlo Cesare Malvasia, it has been possible to reconstruct more clearly the historical changes in the posthumous image of Lippo di Dalmasio, the 'devoto' painter.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	800,000	0	800,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	420,000	2,620,000

研究分野：美術史

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：美術史、美学、イタリア、ゴシック、ボローニャ、ガイド・レーニ、ガブリエーレ・パレオッティ、対抗宗教改革

1. 研究開始当初の背景

美術にかかわるボローニャの人びとにとって、かつてリッポ・ディ・ダルマジオは重要な画家とみなされていた。建築家ドメニコ・ティバルディは、『聖俗画像論』の作者のボローニャ大司教ガブリエーレ・パレオッティ枢機卿にたいし、彼の大聖堂の装飾にはこの画家の様式を採用するよう勧めていた。ガイド・レーニは、コレッジョ・ディ・スパーニャの外壁に置かれていたその《謙譲の聖母》を好んで毎日ながめていたという。

この事実は、ボローニャの美術にかかわってきた私にとって興味深く思われたが、画家のそうした受容・評価の問題についてはおろか、リッポ・ディ・ダルマジオ自身についてすら、現代の文献ではほとんど論じられていない状況だった。

2. 研究の目的

したがって以下のことが、研究の目的とされなければならないかった。

(1) リッポ・ディ・ダルマジオの生涯と作品について、彼が生きたピストイアそしてボローニャの後期ゴシックの美術的環境とのかかわりにおいて、理解すること。とりわけ作品については、現存するすべてを調査し、カタログを作成すること。

(2) リッポ・ディ・ダルマジオの受容・評価のあり方を見きわめ、その歴史的変遷をできるだけ詳細にたどること。そのさいには、カヴァッツォーニやマルヴァジアをはじめとする批評家の言説ばかりではなく、視覚作品——具体的には、リッポ・ディ・ダルマジ

オの作品（あるいは、そうだと考えられたもの）のコピー、リッポ・ディ・ダルマジオに帰属された（あるいは、現在でも帰属されている）作品、そして同じボローニャの後期ゴシックの画家の作品（あるいは、そうだと考えられたもの）に影響をうけて制作された作品——をも史料として最大限に利用すること。

3. 研究の方法

(1) 視覚作品の調査・研究

まずは現存する作品を現場で調査・観察して、可能な限りそれらの写真を撮影した。写真の撮影の困難なものについては、ボローニャの美術監督局やピストイア市立博物館の各写真アーカイヴに所蔵されるネガからプリントした。そのほか個人コレクションに所蔵される作品については、ロンドンのコートールド美術研究所やフィレンツェのロベルト・ロンギ美術史研究所で情報を入手し、その図版を複写している。

これらの資料を先行研究の成果と照らし合わせることで、「真筆作品」「帰属の可能性が検討される作品」「帰属について疑問のある作品」「過去には真筆とされたが現在ではすでにリッポ・ディ・ダルマジオ以外の画家に帰属されている作品」（さらには「典拠にはリッポ・ディ・ダルマジオの真筆として記録されるが現存しない、もしくは確認できない作品」）に分類、整理した。

(2) 文書資料の調査・研究

関連する文書史料のほとんどは、ボローニャ

市立図書館アルキジナジオ（以下 BCABo と略記）、ボローニャ国立古文書館そしてボローニャ大学図書館などに遺されているが、可能な限りでそれらを参照・複写・筆写した。リッポ・ディ・ダルマジオに関する今日なお最も重要な典拠であるカヴァッツオーニの『恩寵の冠』（BCABo, Ms. B. 298）、マルヴァジアの『フェルシナ・ピットリチェ』とその原稿（BCABo, Ms. B. 16）は、多くの時間をかけて読解した。さらに、16世紀のピエトロ・ラモから20世紀初頭のコラッド・リッチ／ガイド・ブッキーニにいたるボローニャの美術ガイドは、帰属の変化を知るために、網羅的に確認している。また、たとえばパレオッティの『聖俗画像論』など、リッポ・ディ・ダルマジオの受容・評価の問題を考えるうえで鍵となる美術理論・美術批評・美術史叙述については、近年の研究を踏まえつつ、精読している。

4. 研究成果

(1) リッポ・ディ・ダルマジオの生涯と作品について

リッポ・ディ・ダルマジオの生涯を記述し、その全作品（ならびに上述のような関連作品）のカタログをまとめるための材料は、ほとんど手元にあり、その分析作業をすでに終えている。この画家のモノグラフを発表することを目標に、現在テキストの執筆をつづけているが、扱うべき情報量はとにかく膨大で、完成までにはもうしばらく時間がかかるものと思われる。

一方で、ボローニャの教会サンタ・マリア・デイ・セルヴィにおける画家の活動については、論文としてまとめて、雑誌『ボローニャ歴史叢書』に公刊した。ここでは、従来リッポ・ディ・ダルマジオに帰属されていた作品をいわゆる「井戸の画家」（サンタ・マリア・デイ・メッザラッタ教会における「イサクの

犠牲とヤコブの祝別」そして「井戸から救助されたヨセフ」の作者で、アレッサンドロ・ヴォルペが命名した）に新たに帰属し直したほか、これまでの美術史叙述ではいっさい言及されたことのなかった聖セバスティアヌス像を私たちの画家のものとして確認している。

(2) リッポ・ディ・ダルマジオの受容・評価について

この問題についても、上記の調査の結果、多くの新知見をえている。たとえば、リッポ・ディ・ダルマジオの「敬虔」で「自然」な画像が、とりわけ信仰対象として、パレオッティの時代以前から注目されていた、という事実が明らかになったことの意義は大きい。すでに1490年代には、サン・コロンバーノ礼拝堂の《謙譲の聖母》のコピーが、フランチェスコ・カッチアグエッラの手により作られていた。その注文の契約書がボローニャ国立古文書館に遺されている。ほかにも1500年前後には、サンタ・マリア・デッラ・ミゼリコルディア教会の《謙譲の聖母》が、フランチェスコ・フランチャのプレデッラを備えた建築家アンドレア・マルケージ・ダ・フォルミジーネの華やかな額縁により装飾されていた。複雑なアウグスティヌス主題の図像をもつこのフランチャのプレデッラについては、現在考察を深めているところである。

リッポ・ディ・ダルマジオを愛した17世紀の大画家ガイド・レーニによるその受容の問題にも取り組みはじめ、明らかにリッポの作品にもとづいて描かれた数点の作品について、ウィーンのアルベルティーナ版画素描館等の機関で調査をおこなった。とりわけレーニの失われた大作、いわゆる《タナーリ家の聖母》にもとづくマウロ・ガンドルフィの版画によるコピーの観察からは、有益な結果がえられた。

さらには、17世紀におけるリッポ・ディ・ダルマジオ理解に大きな影響を及ぼしたパレオッティ枢機卿の美術理論書『聖俗画像論』を精読して、その標準的な読みを導き出している。その結果は、同書に関する近年の研究動向の報告とあわせて、雑誌『西洋美術研究』にまとめている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

(1) 高橋健一「ガブリエーレ・パレオッティの『聖俗画像論』のために」『西洋美術研究』第15巻(特集:聖俗のあわい)、2009年、186~201頁。[査読有]

(2) Kenichi TAKAHASHI, *Lippo di Dalmasio nella chiesa bolognese di S. Maria dei Servi*, 《Strenna storica bolognese》, LVII, 2007, pp. 387-405. [査読有]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 健一 (TAKAHASHI KENICHI)
和歌山大学・教育学部・准教授
研究者番号: 70372670

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: